

ICT街づくり推進会議(第2回) における主な意見

1. 利用者視点・利用イメージ

- ICTシステムは、利用者にきちんと利用してもらうことが重要。利用状況を定量的に把握するため、センサー等の最先端のICTを用いた行動分析等を行ってはどうか。
- 街づくりを行う際は、単なるユーザとしてではなく、地域コミュニティが住民視点を持って主体的に関与することが重要。
- 5つの実証プロジェクトについて、どのような技術が使われているかといった点はよく分かるが、それを誰がどのように使うかといったイメージが浮かびにくい。実証プロジェクトの中で、利用する人のイメージを具体化することが利用者視点のポイントではないか。

2. 共通プラットフォーム、セキュリティ等

- マイナンバー法案が国会に提出されたが、共通IDを利用することで市民生活に有用な行政サービスが提供できることを期待。
- 共通プラットフォームについて、分野毎のルールや規制にとらわれずに最終的に便利なものを目指すべき。
- 共通プラットフォームを検討部会で議論し、具体的な姿が見える形で提示してほしい。
- 複数の自治体が連携してサービスを提供することが効率的であるため、複数の自治体が連携して利用可能な共通プラットフォームを期待。
- オープンデータについて、個人情報保護法の改正や自治体における制度整備もあるが、セキュリティを確保する技術的な基準や仕様等についても検討をお願いしたい。

3. 普及・グローバル展開に向けた課題

- 失敗事例から将来の改善材料が出てくることもあるため、実証プロジェクトの評価結果については、良いもの、悪いものもオープンにすることが必要。
- 実証プロジェクトの成果の横展開の方法について、更なる議論が必要。
- ICTスマートタウンの取り組みを紹介する国際シンポジウムを総務省主催で開催し、世界各国の先進的なものとともに我が国の取組を宣伝してはどうか。
- 本日、実証成果の横展開、水平展開について議論が行われたが、同じ街は2つとないため、単純にある街の成果をそのまま横展開してもうまくいかない。ある街の成功事例を要素分解して、再利用出来るところまで細分化した上で、その要素を他の街で試していくことが必要。
- 実証プロジェクトの成果を横展開する際は、出来上がったものをグローバル展開するのではなく、実証プロジェクトを実施している最中から、グローバル展開を念頭に積極的な情報配信等を行っていくことが重要。
- 普及展開方策については、ただ作って終わりにならないよう、検討部会でさらに協議したい。

4. 街づくりの明確なビジョンとICTによる課題解決

- ICTを活用した農業の在り方は、今の日本に求められている重要なポイント。
- 農地は、防災、緑地保全、教育、福祉との連携等、重要な役割を担っている。中山間地、酪農分野では早くからICTが活用されているが、ICTを活用した新しい農業のあり方を検討することは極めて重要。
- ICTを活用することで、女性が社会参画しながら子育てをすることが可能な社会ができるのであれば、人口減少が続く少子化高齢化社会からの脱却も可能になるのではないか。
- 老朽化した社会インフラの設備の維持管理は極めて重要な課題であり、ビジネスとして成り立つ成功事例も隠れているのではないか。
- 安全・安心の観点から、防犯、治安維持、あるいはサイバー犯罪の防御を新たな視点として、安全・安心を加速化するICTを加えてはどうか。

5. その他

- スマートシティは、単に電力を賢く管理するだけでなく、人々が賢く暮らす社会。街全体が環境にやさしく、水がおいしい、空気がきれい、緑がたくさんあって景色がいいとか、そのような観点も重要。
- 実証プロジェクトを実施する課程で明らかとなった規制等について、規制緩和も含めた解決の道筋を議論してほしい。